

心聖会 広報誌

広報こいけ

発行：社会福祉法人 心聖会
広報委員会
発行責任者：吉村 優児
URL <http://www.e-shinseikai.or.jp/>

(法人事務局)

〒276-0001

千葉県八千代市小池393

TEL 047(488)8222 FAX 047(488)8229

経営理念

わたしたちは、利用者の幸せ、利用者の家族の幸せ、地域住民の幸せ、そして、これらを支えることを職員の幸せとして事業に取り組みます。

- ・障害のある人の人格と個性を尊重します。
- ・障害のある人が安心して豊かな地域生活を営めるよう支援します。
- ・障害のある人の喜びや悲しみを共感できる職員であることに努めます。



秋イベント開催のご報告

心聖会 秋イベント実行委員長

小池更生園 支援員 佐久間 悠

今年度の秋イベントは新型コロナウイルス感染症対策が緩和され、5年ぶりに法人全体での開催となりました。

今回は、お祭りの雰囲気というよりは各事業所のご利用者、ご家族、職員との交流会というコンセプトで開催しました。5年という歳月で、各事業所の職員の顔ぶれが大きく変わっていることもあり、職員による出し物をメインイベントに据え、各事業所の職員の顔や名前をご家族に覚えていただき、合わせて職員の個性や特技などを紹介することで、法人職員の人となりを少しでも知ってほしいと考えたからです。

昼食には、キッチンカー5台とピクニックハートさんをお招きし、美味しい食事を囲んで歓談を楽しんでいただきました。また、各事業所で作成した製品を販売するバザーコーナーも用意し、お食事に加え、お買い物も楽しんでいただけるように準備しました。

当日は、晴天にも恵まれ、今回のスローガン「つなごう絆！心を一つに笑顔の輪！」の通り、ご利用者、ご家族、職員の心をひとつにしてイベントを終えることが出来ました。

次年度も、皆様に笑顔になっていただければ、職員一同尽力いたします。

秋イベントレポート ～各事業所から～

小池更生園

各事業所合同で開催された今回の秋イベント。当日、園の中庭で開かれたバザーコーナーでは、各事業所で用意した製品を販売いたしました。

小池更生園からは、長年ご愛顧いただいている「小池みそ」や、自家焙煎の「ピッコロ・スターニョコーヒー」をご用意。どちらも大人気で、ご家族と一緒に買い物を楽しむご利用者も多く見受けられました。

当日は、どの事業所の販売コーナーも大盛況で、各事業所の活動を広く知っていただく機会にもなりました。



バザーコーナーも大盛況！

作山更生園



職員がソーラン節を披露！

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い一時中断されていた事業所合同の秋イベントがついに復活する事になり、職員全員が一致団結して力を注ぎました。たくさん飾りつけや催し物の準備を何日も前から行うことで、ご利用者とともに心をひとつにして、秋イベント当日を迎える事が出来ました。

事業所対抗の出し物大会では職員がソーラン節を披露し、練習の甲斐あって見事優勝することが出来ました。このように実力が発揮できたのは、ご利用者やご家族の応援と支援あってのことでもあります。来年度も皆様に楽しんでいただけるよう、職員一同全力を尽くします。

こいけ障害者支援センター

秋イベント前日の様子をお伝えいたします。「当日の写真を取り忘れたから、前日の話題を取りあげるの？」いいえ、違います。開催前日、駐車場からご利用者と職員の活気ある声が聞こえてきたので、つい写真を撮りたくなったのです。センターでは、ご利用者やご家族が気持ちよく会場に過ごしやすいように、送迎車を洗車していただきます。ご利用者は明日のイベントを楽しみに、気分も少し上がり気味に洗車を手伝っていました。掃除機をかけることが得意なご利用者は、掃除機のホースを上手に操りながら、車内のホコリを念入りに吸い取っていました。



送迎車をピカピカに！

洗車だけではなく、飾りつけなどにも、ご利用者は楽しみなから参加していました。今後もお利用者ご協力と力を合わせて素敵なイベントを作り上げていきます。

こいけホーム

秋晴れの中、待ちに待った秋イベントが開催され、ご利用者ご家族と楽しい時間を過ごすことが出来ました。

職員の出し物では、事業所対抗戦も兼ねてクイズ対戦やけん玉対抗戦、ソーラン節では会場が大盛り上がりしました。

こいけホームは飲み物コーナーを担当させていただきました。

ご利用者やご家族と顔を合わせながら、対面で接する貴重な機会となり、笑顔弾ける秋イベントになりました。



メイン会場の模様

秋空の下、和やかな雰囲気の中で、ご利用者ご家族の皆様にお食事やお話を楽しんでいただくことができました。次年度も、こうした素敵な時間を提供できるよう努めてまいります。



小池更生園 便り

「研修大会のご報告」

小池更生園

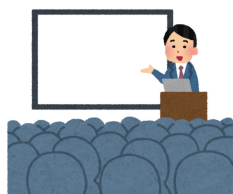
支援員 佐久間 悠

10月3日、4日に「第60回全国知的障害福祉関係職員研修大会 福井大会」に参加しました。今回の研修大会のテーマは「今こそ学び、語り合い、深めよう、私たちのウェルビーイング」で、私が参加した分科会は「働くこととのやりがいや楽しみをみんなで再発見しよう」をテーマにした講演でした。実際に、障害者・ご利用者・職員の幸福度（ウェルビーイング）を研究・測定をした結果から出た傾向や結論についてお話を伺うことができましたが、そのなかでも特に印象に残っていることは、自己選択が出来る環境・機会を作ることがご利用者のウェルビーイングの向上に繋がり、自己選択が出来ることで、安心で、ありのままでありたい「居場所」が生まれること、さらに個性や可能性を引き出し表現出来る「舞台」があると、社会貢献への喜びを

感じることが出来るということです。普段の業務の中で取り組んでいる「意思決定支援」をより深く学ぶことができ、今後のご利用者支援に活かしていきたいと感じました。

また、わたしたちの「お金」についての話も聞くことができました。賃金として受け取ったお金の使い方について、その概念や考え方を改めてプロの方から伺ったことで、自分自身の将来や不安な面の解消につながりました。安定した資金のやり取りがウェルビーイングの向上に繋がることは仕事とは別であり、個人的な問題だと思っていましたが、意外とそうではないと知り、自分自身子どもがいて家庭がある身として学んだ知識を今後活かしていければいいと感じました。

今回の2日間の研修では、初めて耳にする言葉やテーマがあり、新たな知識を得ることができました。この機会を無駄にすることなく、今後の業務に活かしていきたいと考えています。



日帰り旅行にいききました！

小池更生園

支援員 荒木 貴士

9月10日と24日の2回にわたって、日帰り旅行を実施しました。今回の目的地は「サンライズ九十九里」です。新型コロナウイルスの影響もあって、久しぶりに観光バスを利用した大人数での外出となりました。

実施した2回とも天候に恵まれ、ご利用者の皆様は青空の下、楽しいひと時をお過ごしになりました。

サンライズ九十九里では、昼食とお土産購入を楽しみました。昼食は、お刺身や揚げ物等、ボリュームがあるものになっていて、普段はなかなか食べることのできないメニューで、皆様とても満足されている様子でした。お土産コーナーでは、各々が帰園後に食べたいお菓子やジュース、小物等を購入するなど、最後まで充実した時間をお楽しみいただきました。

往復のバスの車内でもたくさん笑顔を見ることができました。

た。帰園後も、多くのご利用者から「久しぶりの外出で楽しかった、食事が美味しかった、また行きたい」といった声を聞くことができました。

来年も楽しかったと思って頂けるように、職員一同全力で企画したいと思います。



サンライズ九十九里で記念撮影！



作山更生園便り

アートプロジェクトに入選

国際障害者交流センタービッグ・アイとBunkamuraが連携・協力して開催された「Big-iX Bunkamura アートプロジェクト」、

今回は国内外400点を超える応募作品の中から各界で活躍されている4名の方に審査していただき、その結果、作山更生園ご利用者の「成田美登」さんの作品が見事に入選を果たしました。

このプロジェクトは、人と人とを繋ぐ「アートの力」によって、障害のある人・ない人すべての人々の交流を促すことで、障害のある人自身が自己の可能性を見出し、そして自己実現ができるよう、アート活動の機会



入選作品と一緒に記念撮影！



入選した作品「無題」です。

を提供することを目的にしています。アートを通じて感動やよろこびを共有したいという考えが基本となっているのです。

今回は、入選した成田美登さんの作品をはじめ、障害を持った方々の想像力やクリエイティビティが形となった入選作品を観覧しに、渋谷ヒカリエまでお出掛けしてきました。どの作品も美しく輝かしい作品ばかりで味わい深く感じる事ができました。会場へ足を運び、それぞれのエッセンスが詰まった作品を間近で堪能することができました。成田美登さんをはじめ、入選された皆さんにとって、このような大規模な会場に作品が展示されたこと、作品が多くの方々の目に留まったことは、とても貴重な体験になったと思います。今後の創作活動にも期待大です！

今年の施設旅行は

令和6年7月19日、ご利用者の皆さんが心待ちにしていた日帰り旅行に行ってきました。

今回の旅先は横浜みなとみらいで、おいしい中華料理とエアカルーズを堪能してきました。

最初の目的地は、昔から「食べ放題」のクオリティに定評のある「横浜大飯店」で、ご利用者の皆さんが何よりも楽しみにしていたお食事です。ワンランク上の食べ放題で、中国四大料理を満喫！材料や作り方にもこだわった豪華なお料理を、心ゆくまで味わいました。

お腹が満たされた次は観光です。日本初の常設都市型ロープウェイとして話題になった「ヨコハマ・エア・キャビン」に乗りして、みなとみらいの美しい街並



美味しい中華にみんな夢中です！



高所から楽しみながら移動♪

みを堪能しました。桜木町駅前を出発し、横浜みなとみらいや横浜港の景色を高いところから楽しむことができました。キャビン内では皆さんそれぞれの場所から観える景色を楽しまれている様子で、「海が見える！」や「あっちには〇〇さんが乗っている！」などの声も聞こえてきました。旅行の係として、準備段階や当日も不安がたくさんありましたが、ご利用者の皆さんの楽しんでる笑顔を見て、とても嬉しく思います。ご家族の皆さん、当日はとても暑い日でしたが、最後までご参加頂きありがとうございました。来年も、楽しい時間を過ごせる行先や内容等の検討をしていきます。またのご参加をよろしくお願い致します。

こいけ障害者 支援センター便り

夏の思い出

初夏に行われたチーム外出を紹介します。チームミントは2班に分かれ、「我孫子市鳥の博物館」と「手賀の丘公園」に出



鳥の博物館にて

掛けました。鳥の博物館では、たくさんの鳥類の標本を思い思いに眺めている姿



手賀の丘公園にて

がありました。手賀の丘公園では、じゃぶじゃぶ池で水遊びをしています。池に入るのをためらっていたご利用者も、チーム

の仲間が楽しんでいる姿をみて、池の中にひと足、ふた足：水びたし。仲間の笑顔から勇気をもらい、水遊びを満喫できた様子でした。チームベリーは、「成



成田ゆめ牧場にて

田ゆめ牧場」に出掛けました。牧場の解放感を感じながら思いっきり遊ぼう！牧場のキャッチフレーズの通り、ご利用者

は様々な遊具にチャレンジしていました。ソリに乗って芝すべり、皆さん意外と職員の付き添いがなくてもへっちゃらで、満面の笑みで楽しむ様子が見られました。

チーム外出の醍醐味は「仲間から刺激を受け、新たな自分に出会える」こと、そして社会性につながる大切な一步となる「仲間を意識できる」ことだと



アスレチックにて

思います。これからも、楽しみなながら成長できるチーム外出を企画していきます。

こいけホーム便り

ホームの夏

8月11日はBBQ、10月10日には雨で二度延期されていた花火大会をやっと開催することが出来ました。どのイベントも笑顔溢れる催しですが、今年度最大の目玉は10月22日に訪れます。

温泉に一泊一泊で宴会

コロナを経て、ついに、ついに！5年振りに一泊旅行が復活です。ありがたいことに、心聖会の事業所の中でこいけホームが先陣を切って、宿泊を伴う旅行に参加させて頂くこととなりました。いやあ、皆さん、出発前からテンションが上がりまくりです。



海をバックに記念撮影！

最後まで体力が持つかと内心ドキドキしているのは、支援員だけのよう

です。さて、どんな旅になったのでしょうか。

大型観光バスで向かったのは、ホテル三日月安房鴨川。のんびりゆったりと温泉に入ったあとは浴衣に着替え、一息ついたら



豪華な夕食♪

お待ちかねの、カラオケ付き大宴会です！皆さん順番にリクエストをお願いします。

2日目はのんびりと出発。休憩やお買物、昼食を食べてからホーム帰館となりました。



仲間とともに！

ご利用者の皆様から「楽しかった」「また行きたい」の声を何度も頂戴し、職員一同も改めて福祉

職の楽しさ、充実感を感じられた素晴らしい旅路となりました。これからも、ご利用者の皆様に楽しんでいただけるような旅行を企画していきます。

法人だより

新任職員紹介

①名前 ②出身地 ③好きな言葉

《作山更生園》

①川城哲也

(かわしろてつや)

②千葉県八千代市

③一期一会



《支援センター》

①福田恵梨香

(ふくだえりか)

②千葉県佐倉市

③桜梅桃李



寄付のお礼

【寄付金】

・持倉貴佳 様

・社会福祉法人実のりの会

理事長 森下正彦 様

【寄付物品】

(秋イベント用ドリンク)

・サントリースタレックス

ソリューション 様



研修報告

強度行動障害支援者養成研修とほう

作山更生園

支援員 倉田 篤

強度行動障害とは、本人の健康や周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になってくる状態のことを言います。医療を含めた総合的な支援体制に加え、障害者福祉施設等の従事者が専門的な知識や技術を身に付けることが求められ、研修の場が設けられています。

今回の研修では、隠れている部分を見ることが全体像を理解することや、ご利用者本人が一番困っている事を理解することの大切さを学びました。具体的には、「障害特性」と「環境要因」を整理し、課題となってくる要因を明らかにすることが根拠に基づいた適切な支援の第一歩になり、環境を整備することで本人の行動上の問題が起これにくくなるということです。今回の研修で改めて、支援のベースになるものと実際の具体的な支援の流れを学ぶことが出来ました。

第7回職員交流野球大会

こいけ障害者支援センター

支援員 稲付 裕貴

令和6年7月30日、9月19日に職員交流野球大会に参加しました。30日の予選大会では、2者連続ホームランもあり2勝して、9月の決勝トーナメントに進みました。決勝トーナメントでは、勝ち進めば、昨年準優勝の大久保学園、優勝のふる里学舎と対戦することになり、チームの士気も上がりました。1試合目は投げ勝ち、準決勝へ進みました。準決勝では、昨年敗れた大久保学園と対戦となりました。試合結果は相手打線を完封で抑え、リベンジを果たすことができました。

決勝へと進み、絶対王者のふる里学舎と対戦することになりました。初回の攻撃で3点を先制してこのまま勝てると思いきや、6回に逆転を許し、惜しくも敗戦となりました。

1日3試合とハードな日程のなか、怪我なく終えて、準優勝という結果にやりきったという気持ちでした。来年度は優勝を目指します。

編集後記

まもなく、今年も終わりになりますね。みなさんはこの1年、どのような目標、目的を掲げて仕事に取り組んでいましたでしょうか。私は今年の3月に前職の小売業を退職し、6月にこの福祉業界に足を踏み入れました。福祉に関わる仕事は初めてでしたが、まったくかわりがなかったわけではありません。13年前の東日本大震災では、私の地元にも避難所での生活を余儀なくされた被災者の方が多く見受けられました。当時の私はまだ中学生でしたが、そうした被災者の方々を支えるために奔走した人々の中に、医療関係者や行政の方々やと並んで、福祉関係者の皆さんがいらしたことは、今でも記憶に残っています。一方の私は、まだ目の前の仕事を覚えることに精一杯で、本当にご利用者のお役に立てているのか、不安になることもありましたが。今年の残り時間もあとわずかですが、私自身が少しでも成長して、よりいっそう、ご利用者を主体とした支援ができるよう、努力を続けたいと思っています。